

鹿骨地区 農の風景育成ワークショップ

〈農の風景育成地区〉目標

案1) 農の保全、魅力発信を通じて、自然や食を大切に子どもが育つまちをつくる

案2) 歴史と伝統を継承し、花・みどり・水辺に囲まれ季節を感じるまちをつくる

案3) 鹿骨の農と伝統と広い空を守り、地域とともに未来につなぐまちをつくる

鹿骨の魅力である農と住環境が調和したまちなみを保全し将来へ継承するため、農業関係者と地域住民、行政が協力して魅力の発信や農を守る機運の醸成、生産者の支援などに取り組みます。

※ワークショップで、上記のようなキャッチフレーズのアイデア、ご意見を出していただけるようお願いします。



〈キーワード〉

鹿骨らしさ、農地の保全、農の風景、空の広がり
 歴史・文化の伝承、担い手、緑のやすらぎ、新中川
 農業者と地域住民の協働、連携、交流、農業体験
 食育、困りごとバンク、小さなことから、魅力発信
 小松菜、江戸野菜、花卉、花の名所、寺社
 地産地消、将来に継承、子どもたちにつなぐ

〈農の風景育成地区〉取組方針（例）

※ワークショップでのご意見をもとに、「取組方針」にまとめていきます。

●農の魅力発信

- ・地域農産物の直売の推進（マルシェ、キッチンカー、小松菜などをその場で食べられる場所）
- ・地域の魅力の発信（江戸野菜レシピ・コンテストの開催、道の駅+地産地消レストラン）

●農の風景の保全

- ・生産緑地の指定、地域ぐるみで花の名所づくり

●担い手の支援、営農活動の支援

- ・農作業ボランティア、地産地消営業ボランティアの仕組み

●農と区民が触れ合う拠点の整備、農地を活かした触れ合いづくり、体験の場

- ・農業公園の整備、整備後の多様な活用方法、体験の場の検討
- ・子ども食堂と連携したフードロスお助け隊、農福連携
- ・困りごとバンク、困りごとお助け隊、農業ボランティア

●情報発信、学校教育との連携

- ・農地の紹介看板+QRコードでの情報発信
- ・鹿骨マップ（農の風景、直売所、店舗、寺社、散策マップ）、「小松菜力」の活用
- ・SNSによる情報発信、YouTuberによる発信、独自インフルエンサー
- ・幼・小・中・高の発達に応じた農業体験、農業体験授業

●手放される農地の積極的な保全・活用

- ・手放される農地の活用、拠点整備